

第4号  
(葉月)  
2013年8月1日

七里ヶ丘こども若者支援研究所

それが社会参加だ



鎌倉市七里ヶ浜東2-31-12  
09072124055  
qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp  
発行責任：滝田衛

暑中お見舞い申し上げます

盛夏

京都嵯峨野三千院

## 寄稿 カウンセリングなんか必要ない！ 旅立ち

僕は、小学校の6年生の時に精神の病気を自覚しました。中学には何とか入学しましたが1年で病気がひどくなり行けなくなりました。21歳で通信制高校を卒業して1年半が経った頃、アンガージュマンへ母に「一度だけ」と連れて行かれ、そこで滝田さんに初めてお会いしました。しかし僕がカウンセリングをして頂くようになるにはさらに半年程かかりました。「カウンセリングなんか自分には必要ないっ」、と思っていたのです。

滝田さんのカウンセリングはただ話をするだけでなく、僕が写真の趣味の話をしたら外へお散歩に誘って下さいました。当時の僕にはこの時間が毎回楽しみでとても貴重な体験を沢山しました。更にカウンセリングを通して自分の内面を整理してみると、そこに子どもの頃からの夢、医療に携わる仕事に就きたいと願う心がありました。この想いを滝田さんに訴え、勉強をやり直すことにしました。(アンガージュマンよこすかの学習支援で国語、英語、数学の順で学びを始めた:滝田補足)最終目標は大学合格ではなく、「夢を叶える」に設定をすべきで、そこに向けて一步一步進むために小さな目標をたてることが重要とアドバイスを頂きました。「合格するために勉強をするのではなく夢を叶えるためにするんだよ。」という言葉は衝撃と納得を与えてくれました。病気になってからまともな勉強をしておらず、中学の内容も理解できていなかったので基礎の基礎からやり直しました。



上 夕やみ迫るJR久里浜駅(悟史写真)

### 実際泣いてしまいました 30歳からの大学生活へ

そして遂に一昨年の末に滝田さんから、「そろそろ準備段階を終えて本格的な大学受験の為の勉強をしたら」と提案されました。自分としても30歳になる前に何としても大学に入りたかったので「やります！」と返事しました。そこからは怒涛の毎日でした。一緒に予備校を探し、時には滝田さん自ら問い合わせをして下さいました。3月に試しに河合塾で数学の春期講習を受けました。高校レベルに全くついていけず自分の甘さを痛感し、話し合いの結果、四谷学院の個別指導で始めることにしました。更に得意科目の国語とセンター試験用の政治経済は自分で学習する事にしました。ここで父に受験をすることへのサポートと許しを貰う確認の話し合いをして12年4月にいよいよ数学から本当の意味で受験生スタートしました。本格的スタートを前に先生から言われたのは、「辛くならないように楽しむことを忘れて、思い切って最初の内は土、日は休みにしてイベント等に行つて良いよ。追い込むのは後半から。」でした。これが気を大分楽にしてくれました。数学の先生は休み時間に様々な興味深い話をしてくれて、通うのがとても楽しくて勉強が楽しくできました。夏には集団での夏期講習にも参加しました。9月からは生物と化学を始め11月から英語を始めました。勉強量が増え睡眠時間も減りました。疲れはひどかったけれど10年以上の闘病生活の大変さに比べればへっちゃらでした。最後のひと月は追い込みでした。それなのにセンター試験の本番に数学で大コケをしてしまい少し落ち込んだりもしました。そんな時も滝田さんのアドバイスで気持ちを切り替えて、私立の試験に備えました。私立の試験の結果も最初から不合格続きでした。なかなか合格が出ないので今年をあきらめてもう1年やる覚悟をすべきかと相談をしたとき、「もう1年やるなら僕は手を貸さないよ。今年で決めるつもりでやらなくちゃダメ。」と言われた時は、「初めに2年計画でと言ったのは滝田さんじゃないか」と反発をしたりもしました。今思えば不合格続きで自分でも気付かないうちに弱気になりかかっていた僕を叱咤激励して下さいましたのだと分かります。その上に姉が別の学部も受けるように言い出していた両親を説得してくれて迷いが晴れました。その直後に受けた歯学部で合格できました。本当に泣くほど嬉しくて、実際に泣きました。やっと夢の入り口に立つことができたからです。30歳からの大学生活ですが新たな友人も出来楽しいです。病気になっても何歳からでもやろうとすれば出来ることに気付いて良かったです。

川辺悟史さん(A大学1年 横須賀市在住)に特別寄稿をいただきました。

**コラム風** 5月に研究所を開設して、常に頭をよぎるのは「この研究所で何ができるのか？」である。はたして、多くの人たちから賛同と激励のお手紙やお電話を頂き、迷う僕の背中を押していただき感謝申し上げる。すでに寄稿していただいた前号のSさん、今号の川辺さん、そして多くの相談者・会員の方々ともに寄り添っていく日々、素直に生きる意義を痛感している。現代社会はモチベーション(やる気)、元気、頑張り…、前へ前への強い風が吹き荒れている。色々な風が吹くことで、人はその時々に向かい合ったり避けたりしてきた。風との向き合い方は決して一つではなく、自分の選んだ方法を「それでいいのだ(バカボンのパパ)」と受け入れたい。「風に吹かれる葦のごとく」？しなやかに。高校時代につま弾いたギター、僕はPPM(ピーター・ポール & マリー)が大好きだ。3年生でキョン<sup>2</sup>と柿沼くんと僕で組んだバンドが思い出される。僕は本当に下手、2人はセンスも技術も抜群だった。ポプデランの秀作”風に吹かれて”は激しさを感じるが、PPMが歌うと一味違った柔らかな風の香りがする。強い風が吹く度に僕はPPMをロずさむ。

## 9月8日(日)午後 講演会 & 演奏会 ひきこもりからの生きなおし

“社会的ひきこもり”という聞きなれない言葉が世に出て、救われた人、レッテル貼りに苦しんでいる人、様々だと思う。この用語で若者の状態を初めて解明した齊藤環氏(2002年 現筑波大教授 元佐々木病院精神科医)の医院に通っていた岡本圭太さんとお会したのは2004年、アンガージュマン・よすかのフリースペースだった。誠実で自身のことを明確に話せる人でした。それからは何度かお会いし、いつの間にかロード通信に執筆して、へもへも通信を書いて、僕も愛読者の一人になった。3月にその思いを伝えるべく横浜の仕事場へ足を運び、一緒にランチをした。和食屋だった。昼休みのひと時を頂いてしまったが、気の置けない旧知の感覚で親しくお話しした記憶がある。僕自身、かれこれ20年ぐらいい前か何人もの当事者にお会いしてきたが、優れてひきこもりの若者たちの理解者、朋友のような存在として岡本さんには期待をしてしまう。ということで、9月の講演会が実現した。ぜひ足をお運び頂きたい。別添講演会 & 演奏会のチラシをご覧ください。

**子ども若者を理解し応援するつどい**  
～トークと音楽、そして人とひと～  
**ひきこもりからの生きなおし**  
○講演者 岡本圭太さん(はこはま若者サポートステーション 相談員  
コーディネーター・滝田実(研究所主宰、元NPO理事長)  
○演奏者 ピアノ:三澤マリさん、高比良秀一さん、  
琴:高橋孝子さん、岩佐由紀子さん  
フルート:柏木礼子さん

日時 2013(平成25)年9月8日(日) 開場:14時15分  
開演:14時30分 終演:16時45分  
場所 横須賀市総合福祉会館7階第1音楽室  
参加費 500円 定員150名 ※申込締切8月31日  
主催 こども若者応援団  
後援 横須賀市

これから配布するチラシ 著書 1. 人並みへの憧憬 2. 今考えること 岡本圭太さん byサポステHP

### 会員及び支援者の皆様方の声

### ○支援者応援の声

### △僕のコメント

○(前略)何かなさるだろうなとは思っていましたが、こんなに素晴らしいことを始められるとは…！私たちも体験者(親としてですが)として、何かをと思いつきながらも、なかなか具体的に実行するまでには至りません。最近では、夫は生活の中で、様々な薄らぐ物(衣類、食器など)を見ては涙を流し、思い出話をしては「早く会いに行きたいな」とさげんでいます。4年たって、だんだん薄らいでいくのではなく、ますます存在感が増してきているのを感じます。きっと一生ついてまわる思いなのでしょうね。できるだけ自然体で受け止めたいなと思っていますが、果たしてどれだけのことができるのでしょうか。起こってしまったことは、もうどうすることもできません。起こらないように最善を尽くしたいと心底思います。何ができるのでしょうか。気持ちだけは持っていきたいと思っています。(後略) Kさん △15年ほど前、不登校のこども達の教室ボランティア希望でKさんの息子さんにお会いした。彼「僕に何かお手伝いできませんか？」僕「学習の援助をお願いしたい」彼「理系なので数学や理科が教えられる」と言って高校時代の物理ノートを持ってきた。ノートは参考書を超えた傑作、きれいな字でカラフルに整理されていた。誠実な人柄が思い出される。

○通信ありがとうございます。久里浜駅を降りYさんに迎えに来て頂き初めて参加したウィル(ひきこもり親の会)、Jさんとの出合やカウンセラーと出合もアンガージュマンのお陰でした。本当に感謝です。くれぐれもご自愛ください。(Oさん)  
△県中央から毎月お出かけ頂き、お子さま3人との壮絶な日々をしっかりと語りながら、笑顔で笑い飛ばす素晴らしい方でした。  
○孫の気遣いをして下さり心より感謝しております。こどもが他市に住んでおり孫は中3になりました。中2で不登校となりましたが、こどもから口出しをするなど言われ、ただ心配するだけで何もあげられないのが残念です。Sさん。  
△そのお気持ちが届くものです、支えです。お子さんとお孫さんを信頼して大丈夫ですから。

### カウンセリング考 自分の生活を作りだす 自分を生みだすといくみの中で考えること

□年齢が高くなると親の役割を担うことを考えるようになる。親も80歳を超え、親の生活支援や家の管理をこどもが具体的に引き受けざるを得ない。社会生活から遠ざかっていた自身を振り返り、掃除や洗濯、庭の手入れや部屋の片づけ。やることは沢山ある。町内会やご近所との付き合いも、親に代わってこどもがやる時代になります。万が一の時の救急連絡、社会保険や年金・財産分与等の事務処理も日程に上る。社会資源としての成年後見人制度や福祉手続きも考えられる。いずれにしても、家族全体の高齢化に対応する生活を作りだす時代に入る。こどもへバトンを渡す、命のリレーです？  
□中学そして高校卒業後、就職経験がない資格も何もない。「ないないづくし」と言うのは素直なもの？ではなく、「自分がある」と気づきたい。自分を発見する。学歴や資格に目を奪われる現代、自分自身に注目したい。人から、行動力、会話力、真面目さなど、自分を発見する。いや自分を生みだすのだ。今まで否定していた自分を再発見、新たに生みだす。自分を切りぎむのではなく、自分のタカラを見つけない。「自己啓発」とか「性格を変える」陳腐な行動ではなく、辞めて来た学校、合格しなかった就職試験を、逆手にとって財産にすることだ。人にできない経験を重ねているのは最高の財産なのだから。

7月31日現在研究所概要 会員数38 寄付金額計288,500円 事業等総アクセス数106件

ご案内 (研究所は駐車場は2台分あります。電車の方は駅までお迎えします。事前にご連絡ください。)

右の日程が進めます。相談のお申込みはいつでもどうぞ。観光客で七ヶ浜はにぎわってます。連絡先は携帯(09072124055)へ。応援団会議は9月の講演会の最終確認と交流をします。お時間のある方は参加ください。当日の運営など一緒に考えませんか。会場は右記の通りです。	8月の開所日程			
	1日(木)	相談(予約済み)	15日(木)	夏休み
	5日(月)	相談(予約済み)	19日(月)	相談
	8日(木)	夏休み	22日(木)	相談
	12日(月)	夏休み	26日(月)	相談
応援団会議 8月29日(木) 午後2時～3時 横須賀市市民活動サポートセンター(京急汐入駅)				